

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ① 発見と感動により、学ぶことの喜びや大切さを教え、教職員が一丸となって生涯学習を可能にする確かな学力と意欲を育成する。
- ② 生徒一人ひとりが自己の価値に気づき、自尊心を高め、夢や希望の実現に向かって健康的で人間性豊かな人材を育成する。
- ③ ものづくり教育等を通して創造する力を高め、日常の問題を解決し、地域社会に貢献する創造的人材を育成する。

2 中期的目標

- 1 学ぶことの喜びを通して確かな学力の育成
(1)特色ある総合学科の教育活動を通じて社会で必要とされる基礎的・基本的な学力の育成を図る。
ア 生徒一人ひとりの学習歴や学力に応じたきめ細かな教材や指導方法の工夫を行い、教員間で生徒の情報を共有して指導を行うなど、生徒が学校や社会で困らないために3方面（社会面・学習面・身体面）から支援を行う。
イ 「ものづくり」を通して、将来のキャリア像を現実化と自己肯定感を高めさせる。
ウ 急速なグローバル化により、様々な場面で語学力が要求される時代を生きるために、語学力を活用しコミュニケーション能力の育成を図る。
※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度「この学校は、他の学校にない特色がある」(R03 75% R04 90% R05 84%)を令和8年度には 80%以上を維持する。
(2)教員のスキルアップにより魅力ある学校づくりをめざす。
ア 公開授業や研究授業などを取り入れた校内研修や、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に取り組み、授業力を向上させる。
イ 内外の研修機会を利用して個々の教員の価値観を広めるとともに、新たな教育実践に挑戦し質の高い学びを提供する。
※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度「授業はわかりやすく楽しい」(R03 74% R04 84% R05 77%)を令和8年度には 80%以上にする。
- 2 基本的生活習慣を育成すると共に地域連携を活用したキャリア教育の推進
(1)教育活動全般を通して、基本的生活習慣と公共マナー等の規範意識を育む取組みを推進する。
ア 社会生活を送る上で必要な「挨拶」「言葉遣い」「時間を守る」ことを身に付けさせる。
学校に登校できない生徒、学校に来ても授業に入れない生徒に対して、中学校や家庭等と連携することにより指導の充実を図る。
イ 授業以外にも生徒が学校へ来る理由を作り登校習慣を高める。また、中途退学・不登校を未然に防止するため、関係機関との連携や SC、SSW 等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた教育活動を推進する
※中途退学する生徒（R03 6名 R04 9名 R05 4名）を令和8年度までに6名以下にする。
(2)キャリア教育の推進
ア 探求活動を通じてコミュニケーション力を向上させると共に、ハローワークや地域企業等と連携して、望ましい職業観・勤労観を養い、自己理解を深め、主体的に進路選択をできることをめざす。進路選択支援と就労への準備を進め就職内定率 100%維持をめざす。
イ 生徒への進路保障を充実させるために、地域企業との連携や信頼関係づくりに努めるとともに、生徒にライフプランニングを思考させ、職業意識や社会的スキルを高める。
ウ 創造的人格を形成するため、アイデアを形にする方法を習得させ自信を高めチャレンジ精神を養う。
※生徒向け学校教育自己診断において、「将来の進路や生き方について考える機会がある」と答える生徒（R03 84% R04 90% R05 84%）を令和8年度までに90%以上にする。
(3)地域連携の推進
ア 地域の学校への出前授業、イベントやボランティア活動に積極的に参加させ、コミュニケーションスキルやボランティア精神を養うと共に、地域に根ざした教育活動を展開する。
※地域イベントや出前授業への生徒の参加を、(R03 0回 R04 4回 R05 1回)令和8年度には年間3回にする。
イ 地域の各種団体との交流を進め広報と地域の情報交換を推進する。
- 3 安全で安心な学校づくりの推進
(1)生徒支援体制
ア すべての生徒に対して適切な指導と必要な支援を行い、SC・SSW を活用し自立と社会参加に向けて一貫した教育支援を継続して行う。
イ 教育相談体制を充実させ、課題を抱える生徒の早期発見・支援を行う。
ウ あらゆる教育活動において人権教育を進め、相互が敬愛し、互いの信頼の上に立って人権が尊重される心の通う教育を実現する。
※生徒向け学校教育自己診断において、「学校に行くのが楽しい」と答える生徒（R03 55% R04 81% R05 76%）を令和8年度までに 80%に引き上げる。
※生徒向け学校教育自己診断において、「人権について学ぶ機会がある」と答える生徒（R03 81% R04 90% R05 86%）を令和8年度までに 90%に引き上げる。
(2)安心で安全な学校づくり
ア 生徒が安心して授業や実習を受けることができるように、授業を受ける（社会的・設備的）環境を整備する。
イ 災害時における連絡体制の確立と防犯防災教育の充実
※生徒向け学校教育自己診断において、学校安全の項目における肯定率（R03 84% R04 84% R05 85%）を令和8年度までに 90%に引き上げる。
- 4 校務の効率化と働き方改革の推進
ア ICT 教育を充実し職務の効率化を図る。
イ 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ教職員の健康管理体制を充実する。

府立佐野工科高等学校 定時制の課程

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年1月実施分〕	学校運営協議会からの意見
生徒 全般的に肯定率が高い数値である。 R 6 年度はR 5 年度より全般的に増加・ほぼ変化なし。 回答数 36 人のため一人当たりの割合が約 2.8 ポイント ・昨年度より減少した項目（3 項目のみ） 「自分の学級は楽しい。」-2.2％ 減少 「先生は、生徒の意見を聞いてくれる。」-0.4％ 「体育祭・文化祭は楽しく行えるよう工夫されている。」-1.4％ ◇一人当たりの割合から変化があるとは言えない。 ・R 5 年度より 10 ポイント以上増加した質問 「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる。」 R 6 （91.4％） R 5 （81.4％）差 10.0 ポイント増 「校長先生の話は興味深くわかりやすい。」 R 6 （83.3％）R 5 （69.0％）差 14.3 ポイント増 「先生は、お互いに協力し合っている。」 R 6 （88.6％）R 5 （78.0％）差 10.6 ポイント増 「成績などの内容についてプライバシーが守られている。」 R 6 （91.7％）R 5 （81.0％）差 10.7 ポイント増 ◇昨年度低かった項目が回復している。 ・相対的に低い評価のもの 「学校のホームページをよく見る。」47.2％ ◇情報は学習支援連絡網で配信しているためHP等の活用はあまりない。 「部活動に積極的に取り組んでいる。」61.1％ ◇生徒数の減少に伴い活動できるクラブも減ってきている。 この2項目を除いて低い項目から 「学校に行くのが楽しい。」75.1％ 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」77.1％ 「自分の学級は楽しい。」77.8.％ 「授業はわかりやすく楽しい。」77.8.％ ◇一般的な数値としては高いが、全項目の中で、学校として一番大切にしたい4項目が低いことを大きく受け止めている。「楽しい学校」をめざしたい。 保護者 本年度は、実施時期が少し遅れたため懇談期間に間に合わなかったため、回答数が1件しか回答してもらえなかった。抜本的に回収方法を検討する。	第1回学校運営協議会 令和6年6月27日（木） 18:00～ ○スタディルームの活動状況や来室生徒数について教えてください ・特定の教員を配置せず、来室する生徒の要望に応じて資格指導、進学指導などを実施しています。テスト期間中は毎日開室しています。来室生徒数については、昨年度は年間延べ100名程度です。 ○もっと多くの生徒が来るように考えては。 ・様々な生徒の意識によるものですので、様々な対応を考えます。 ○全日制はテストを実施しないと聞いているが、定時制のテストはどのようになっていますか。廃止してはどうですか？ ・昨年度の年間5回実施から年間4回に回数を減らしました。生徒の現状としてテストを目標に勉強している生徒もいるので時間をかけて検討したい。 第2回学校運営協議会 令和6年10月25日（金） 18:30～ ○勤労生徒の支援から時代は変化して多様な生徒の受け入れ先（セーフティネット）として今後も躍進してほしいです。 ・多様な生徒を最大限受け入れ卒業させることをミッションとして頑張ります。 ○資料にある卒業後の未就職者についてどういった指導を行っていますか。 ・ハローワークとの連携や、サポートステーションなどにつなげています。 第3回学校運営協議会 令和7年3月10日（金） 18:00～ ○コンテスト参加の指導教員が偏っているとのことだか、モノづくりのできる教員をもっと集めるべきでは。 ・指導ができる先生を異動で来ていただくのは難しい。できるだけこの指導を一緒に行うことで、本校で育ってもらおうしかないと思っています。 ○夜の停電の避難訓練についてはどうなったのか。 ・廊下や教室の電気を消しても何らかのライトがあるので、危機感はなかったが実際、すべてのライトを消したときの暗さは想像以上でした。それを踏まえて避難計画を立てていきたい。 ○全日制の文化祭の件はどうなりましたか。 ・定時制の授業で使用する体育館に、約束を違えて全日制が文化祭の設備を放置した件で、授業のために定時制の職員で物品を移動させざるを得なかったのですが、その復旧のため文化祭の開催が遅れるなどの影響がでました。定時制としては全・定の連絡体制の不備及び、全日制の情報周知の不備によるものと認識しています。そのため、定時制の責任者として連絡体制の不備についてのお詫びの文書をつくり配布してもらいました。全日制の校長は認識が違うようですので、今後しっかりと連携が取れるようにいたします。 ○卒業生も多く出されているということでしっかりやられていると思います。 ○泉州地域の数少ない定時制高校であるので、もっと価値を創造していく必要があると思います。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 学ぶことの喜びを通して確かな学力の育成	（1）基礎的・基本的な学力育成 ア 個別の指導方法の工夫、教員間で生徒の情報を共有 イ ものづくりを通して、キャリア像を現実化と自己肯定感の向上。	（1） ア 「わかる授業」授業を展開し学習意欲を高め確かな学力を育成する。 ・授業ごとにまとめのレポートや小テストを実施し授業参加の実感と実績を残す。 ・グループワークや調べ学習の活用を促進する。 ・ICT 機器を最大限活用しわかる授業を推進する。 ・実習等の活動できる環境を整備し教育効果を高める。 ・生徒の情報交換の場を設定する。 イ ものづくりコンテスト等への出品や各種資格・検定を見通して生徒への自己肯定感と将来の意識づけを行う。	（1） ア・学校教育自己診断（生徒）結果における。授業・評価に関する項目の肯定率 85％以上[81％] ・学校教育自己診断（教員）における ICT を活用した授業に関する肯定率 100％[100％] イ・課題研究発表会 1 回 ・技術コンクールや各種競技への参加 2 点 [3 点]	（1） ア・学校教育自己診断（生徒）結果における授業・評価に関する項目の肯定率 83％[81％] [○] ・学校教育自己診断（教員）における ICT を活用した授業に関する肯定率 100％[100％] [○] イ・課題研究発表会 1 月に実施 1 回 [○] ・技術コンクールや各種競技への参加 4 回 11 点「◎」 ・学生科学賞 3 点出品 ・サイエンスフェスタ 1 点出品 ・おもしろ科学まつり 1 点出品 ・定通生徒秋季発表大会 3 点出品（教育振興会賞 1 点） ・定通生徒秋季発表大会 3 点出品

府立佐野工科高等学校 定時制の課程

	ウ コミュニケーション力の向上 (2) 教員のスキルアップにより魅力ある学校づくりをめざす。 ア 教員のスキルアップ イ 質の高い学びの提供	ウ 校内外で、他言語を活用したコミュニケーション活動を体験し能力の育成を図る。 (2) ア 公開授業週間を活性化し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業力、指導力の向上に努める。 ・他校との交流をはかり、授業力・指導力の向上に努める。 イ授業や HR 等で1人1台端末を有効活用する機会を増やす。 ・StudyRoom 利用を推進し、学習する習慣を養う。 ・校内の職員研修を実施する	ウ・英語検定等受験者1名以上[1名] ・学外での活動・地域ボランティア活動 4回 [4回] (2) ア・公開授業週間 1回 [1回] ・授業参観週間1回 [1回] ・他校教員との交流研修会1回[初] イ・StudyRoom 利用者 100 名以上を維持 [156名] ・質の高い学びのための校内職員研修会 4回 [4回]	ウ 学外でのコミュニケーション活動2回 [△] 言語に関する参加できる会が少なかった。 ・英語検定等受験者0名[△]受験生を勧めきれなかった ・韓日交流作文コンテスト 4名出品 ・韓国語作文コンクール「モコジ」参加8名出品 [◎] (2) ア 教員のスキルアップ [◎] ・公開授業週間10月実施1回[○] ・授業参観週間各学年分散開催 [○] ・学校教育自己診断（生徒）結果における他の先生が授業を見学に来ることがある項目の肯定率92%[81%] [○] ・他の定時制高校教員との交流研修会 夏季休業中に4教科で実施（国語・数学・家庭・情報）[◎] イ・StudyRoom 利用者64名 [△] 大学進学指導者を含めず。参加生徒が限定傾向にあり、今年は増やすことができなかった。 ・職員研修 5回 「◎」 救命救急講習7月実施 SSWによるヤングケアラー対応(7月) SCによる不登校対応(9月) 外部講師による児童虐待対応(11月) 外部講師による支援生徒の就労対応(11月)
2 基本的生活習慣を育成すると共に地域連携を活用したキャリア教育の推進	(1)基本的生活習慣の向上 ア 基本的生活習慣の充実 イ 中途退学・不登校防止、生徒の状況に応じた教育活動を推進する (2) キャリア教育の推進 ア 進路支援体制 イ 職業意識の向上 ウ チャレンジ精神の育成 (3) 地域連携の推進 ア 地域貢献活動・ボランティア活動 イ 広報活動の充実	(1) ア・学校に登校し、授業に出る習慣作り。 ・遅刻・欠席した者への指導。 ・早退防止と授業の出席を促すための当番制度 ・登下校時の校門指導により生徒とのコミュニケーション機会を増やし、生活規律や学習規律などを通じて基本的習慣を身に付けさせる。 イ・不登校生徒への家庭連絡、家庭訪問を強化する。 ・SC や SSW の活用を促進し退学生徒を減少する。 (2) ア・探究や HR を通じで就労意欲を高める。 ・地域企業と連携し、就業率向上を図る。 イ・外部講師や卒業生講話を実施する。 ・地域企業と連携した職場体験・実習等を実施する。 ウ・資格・検定に挑戦させて自信やチャレンジ精神を養う。 (3) ア・地域イベント等に積極的に参加協力する。 ・生徒会が主体となった地域清掃活動を実施する イ・中学校訪問の実施（多様な生徒の進学先としての PR) ・地域の団体との連携を実施する。	(1) ア・学校教育自己診断（生徒）結果における「登校・クラスの楽しい」項目の肯定率70%を維持[76%] ・校門指導における遅刻回数 1000 件以下を維持[802 件] ・早退回数 70 件以下を維持[77 件] ・学校教育自己診断（生徒）（保護者）における「学校へ行くことを楽しい」の肯定率を共に 75%を維持[生徒 71%保護者 75%] イ・退学する生徒7名以下を維持[4名] (2) ア・就職内定率の 100%維持 [100%] ・10 月時の就業率 65%以上を維持[65%] イ・職場体験・実習等参加者数2名以上[2名] ・学校教育自己診断（生徒）における進路指導項目の肯定率 85% [83%] ウ・資格・検定合格者のべ5人[5人] (3) ア・出前授業等やイベント等への参加 3回 [4回] ・地域清掃活動4回[4回] イ・中学校訪問 10 校以上を維持[14 校] ・学校案内 10 件以上[9回] ・地域の団体連携1回[0回]	(1) ア・学校教育自己診断（生徒）結果における「登校・クラスの楽しい」項目の肯定率76%「○」 ・校門指導における遅刻回数 1580 件 [△] 統計方法の変更、校門時ではなく教室での遅刻数 ・早退回数 159 件 [△] 特定生徒の影響が大きい ・学校教育自己診断（生徒）（保護者）における「学校へ行くことを楽しい」の肯定率 生徒75% 保護者100%「○」 イ・退学生徒1名 [◎] (2) ア・就職内定率 [◎] 卒業予定者3年生13名/21名中 4年生4名 就職希望者13名中内定13名 進学希望：2名中 工業系大学志望1名 専門学校1名内定 ・就業率の向上70.7%（1月）[○] イ・職場体験0名 [△] 希望者がいなかった ・学校教育自己診断（生徒）における進路指導項目の肯定率87% [○] ウ・資格・検定合格者のべ12人[○] 計算技術検定挑戦者3級1名・4級1名合格 日本語ワープロ検定 準2級1名 3級7名 4級2名合格 (3) ア地域貢献活動・ボランティア活動 [○] ・泉佐野市主催小学生向けプログラム教室に講師として参加7月 10 月2回実施 [△] 要請団体の減少 ・地域清掃活動4回[4回][○] イ広報活動の充実[○] ・中学校訪問 7 校実施 3 月中に7 校予定 ・学校案内 12 件 ・地域の団体連携小学生向けプログラム教室 2 回 [◎]

府立佐野工科高等学校 定時制の課程

3 安全 で安 心な 学校 づく りの 推進	(1)生徒支援体制 ア 個別の生徒支援 イ 教育相談体制 ウ 人権教育 (2)安全で安心な学 校づくり ア 授業環境の整備 イ 防犯防災教育	(1) ア・SC・SSW や外部機関と連携を図りなが ら、担当分掌が中心的な役割を果たし、生 徒支援会議を定期的に開催し、ヤングケア ラーなど支援を必要とする生徒の情報共有 や支援方法を検討する。 イ・生徒が気軽に相談できる教育相談室を めざして環境整備を行う。 ウ・HR や行事等で指導を行い、互いに尊 重し合う態度を育成し、いじめ・暴力を許 さない環境づくりを行う。 (2) ア・すべての生徒にとって「わかる、でき る」授業をめざし、ユニバーサルデザイン の視点を取り入れた授業づくりを推進す る。 ・実習設備施設共に安全で効果的な環境 を整備する。 ・HR 教室及び校内の清掃活動を行い、環 境の美化を徹底する。 イ・HR 等で防犯・防災教育を実施する。 ・生徒・教員における災害時の連絡体制を 整備する。	(1) ア・生徒支援会議を毎月実施する。年間 12 回以上維持 [15 回] ・SSW による家庭訪問 3 回以上 [0 回] イ・教育相談室来室者 60 名以上[62 人] ・学校教育自己診断における教育相談項目 の肯定率（教員）90%[100%]、 （生徒）82%以上を維持[85%] ウ・学校教育自己診断（生徒）における人 権教育項目の肯定率 85% [83%] (2) ア・学校教育自己診断（生徒）における授 業改善の肯定率 90% [88%] イ・防犯防災教育・避難訓練の実施回数 1 回[2 回] ・緊急連絡・安否確認訓練 1 回 [1 回]	(1) ア個別の生徒支援[○] ・支援会議 13 回 ケース会議 47 回 [◎] ・SSW による家庭訪問 0 回 [△] 家庭で はなく学校にて相談 イ教育相談体制[○] ・教育相談室来室者 48 名 [○] ・学校教育自己診断における教育相談項 目の肯定率（教員）89% （生徒）85% [○] ウ人権教育[○] ・学校教育自己診断（生徒）における人 権教育項目の肯定率 89% (2) 安全で安心な学校づくり ア授業環境の整備 ・学校教育自己診断（生徒）における授 業改善の肯定率 87%[○] イ 防犯防災教育 [◎] ・火災避難訓練 9 月実施 職員避難訓練 1 月実施（停電想定）[◎] ・学習支援連絡網を活用した緊急連絡体 制の安否確認訓練 3 月実施 [◎]
4 校務 の効 率化 と働 き方 改革 の推 進	(1) 校務の効率化 ア ICT による校務 の効率化 イ 労働安全衛生管 理体制の充実	(1) ア・ICT やデジタル教材を活用するなど、 校務の効率化を図る。 イ・会議打ち合わせ等の効率化 ・「府立学校における働き方改革に係る取 組みについて」に沿って業務の見直し・効 率化を図る。 ・会議資料・職員連絡のデジタル化を推進 するための環境整備 ・職員の安全衛生環境の向上	(1) ア・ICT 活用における業務効率向上 学校教育自己診断における、「コンピュータ 等の ICT 機器が、授業などで活用されてい る。」（教員）100% [100%] 「学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用して いる。」（生徒）85%維持 [84%] イ・年次休暇取得日数平均 13 日以上 [16.4 日] ・学校閉庁日の維持 15 日[15 日] ・職員会議におけるペーパーレスの実現 50%以上 [-] ・教員の 1 人 1 台端末配備 90%以上 [31%] ・職員の安全衛生に関する会議を年 10 回 以上実施 [11 回]	(1) ア学校教育自己診断における I C T 活用 における業務効率向上 [○] ・「コンピュータ等の ICT 機器が、授業な どで活用されている。」（教員）100% [○] ・「学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用し ている。」（生徒）94% [◎] イ労働安全衛生管理体制の充実 ・年次休暇取得日数 16.4 日[○] ・学校閉庁日夏期 9 日冬季 9 日計 18 日 [◎] ・6 月よりペーパーレス職員会議実現 10 回/12 回中実施 [◎] ・教員の 1 人 1 台端末 100% [○] ・職員の安全衛生に関する会議 10 回実施 [◎]